



内閣総理大臣  
菅 直人

「第13回蓄熱のつどい」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

地球温暖化は地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすものであり、それを防止することは人類共通の課題です。

民主党政権は、「すべての主要国による公平かつ実効性のある国際的枠組みの構築と、意欲的な目標への合意」を前提として、2020年に、温室効果ガスを1990年比で25パーセント削減するとの目標を掲げました。これは地球の将来を真剣に考え、世界を動かすために日本がまずメッセージを出そうと、率先して提示した

ものです。

また、先月に閣議決定しました「新成長戦略」においては、我が国の強みである「グリーン・イノベーション」による世界ナンバーワンの「環境・エネルギー大国」の実現を目標に掲げ、新たな雇用と産業の創出を図るとともに、2020年に向けて世界全体のCO<sub>2</sub>削減に寄与していくこととしています。

その目標達成の手段の1つとして、ヒートポンプの普及拡大による住宅・オフィス等のゼロ・エミッション化の推進を掲げています。

大気や夜間の電力を有効に活用するヒートポンプ技術は、暮らしの省エネ化をはかりCO<sub>2</sub>削減に大いに寄与するものです。「環境・エネルギー大国」の実現に必要な環境技術として、更なる普及拡大を期待しております。

最後に、「第13回蓄熱のつどい」のご成功と皆様の一層のご発展をお祈り申し上げます。

平成22年7月15日

(代読)



経済産業大臣  
直嶋 正行

「第13回蓄熱のつどい」の開催に当たり、一言、ごあいさつを申し上げます。

資源やエネルギーは、国民生活や経済活動の根幹を支えるものです。その大部分を海外に依存する我が国は、資源・エネルギーが安定的に供給される体制を構築することが不可欠です。一方で、近年、エネルギー利用に伴う地球温暖化問題へのより一層の対応が世界的に求められております。

このような環境変化を踏まえ、先月、新たな「エネルギー基本計画」を閣議決定しました。その中では、エネルギー安全保障の強化及び地球温暖化問題の解決を同時に

達成し、また、我が国の強みである低炭素型の成長を可能とするエネルギー需給構造の実現を掲げたところです。

これは、世界最高水準の省エネ・低炭素技術の普及を強力に推進し、CO<sub>2</sub>の大幅な削減を目指すものです。例えば、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの普及を推進するため、ヒートポンプ等の高効率給湯器を2030年までに全世帯の8から9割に普及させることを目標に掲げました。

そして、省エネやCO<sub>2</sub>削減に大きく寄与するヒートポンプ・蓄熱システムの普及拡大等は、新たな需要を生み、エネルギーを基軸とした経済成長の実現においても大きな役割を果たすものと期待しております。

経済産業省としても、「エネルギー基本計画」の着実な実行を図り、ヒートポンプ・蓄熱システムの普及拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

最後に、「第13回蓄熱のつどい」が実り多きものとなることを期待するとともに、財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターとご列席の皆様の更なるご発展とご活躍を祈念いたしまして、私のごあいさつといたします。

平成22年7月15日

(代読)